

鈍の皿



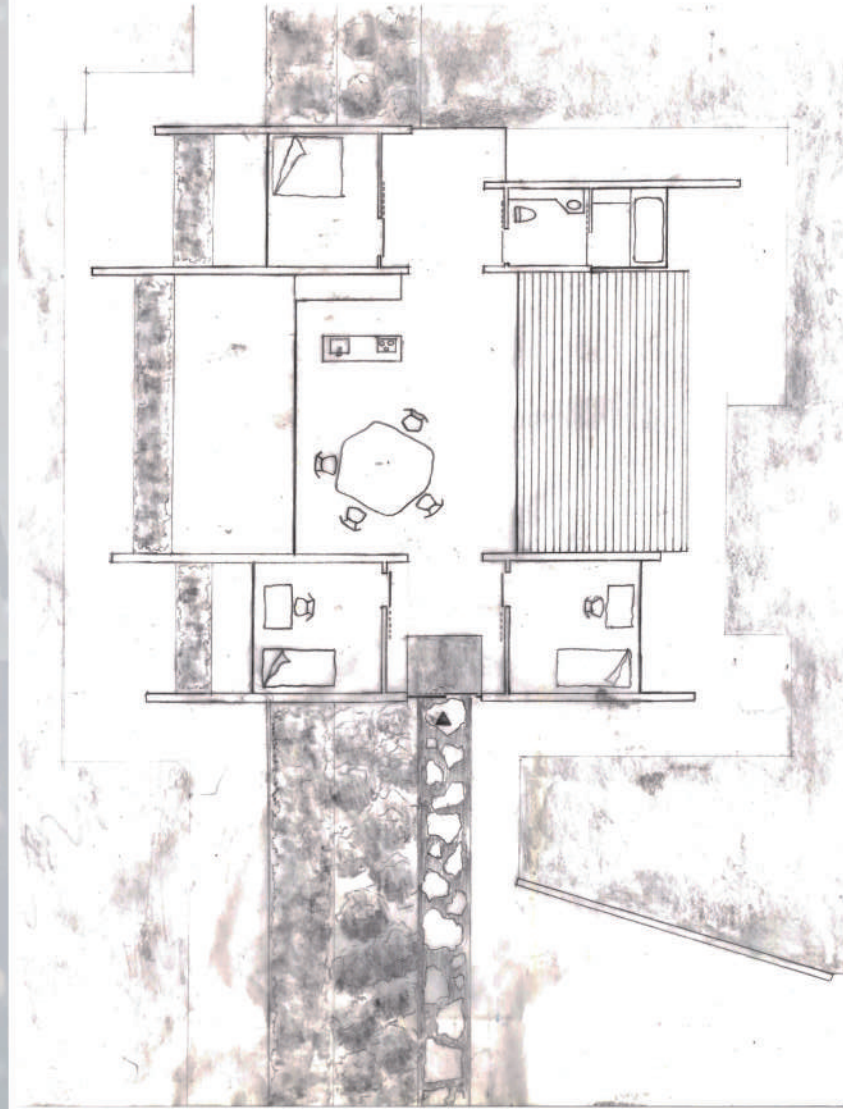
選定敷地

広島県三原市八幡町に実際に赴き、選出された地域「屋中」「篝」「野串」を見てまわった。そして「野串」のひとつの土地に目が留まる。そこは山から段々に見える田畑とその反対側に民家がある。そんな土地を見たとときに皿のようなイメージが思い浮かべられた。このイメージを大切にし、選定敷地とした。

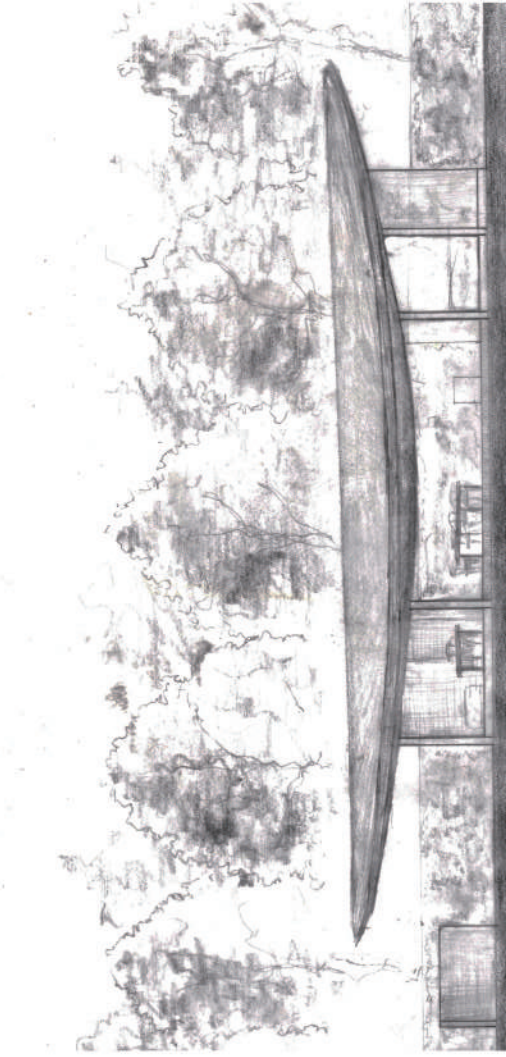
コンセプト

大地の段々になっている田畑と、そこに垂直に交わるように建てられたコンクリートの壁。対立している様に見える大地とコンクリートの壁だが、大地に突き刺さることにより上下の土地をつなぐ役割となっている。その上にかかる大きな屋根が空と大地を受け止める皿となっている。そしてその皿をつたって流れていく水。

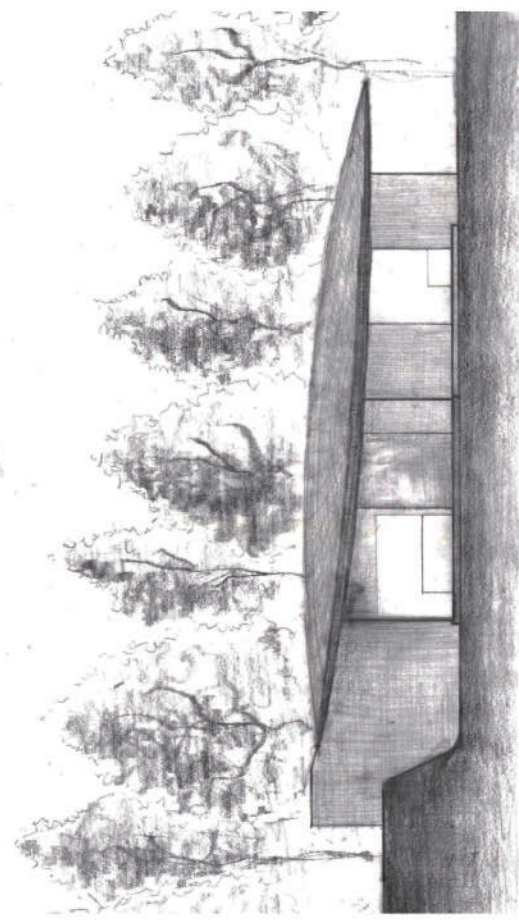
すべてをつなげ、受け、そして流していくような場のオブジェを提案する。



平面図 S=1:100



立面図 S-1:100



断面図 S-1:100

